

地域密着型サービス評価の自己評価票 野ばら

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	見慣れた自然環境の中で優しさに会い・やすらぎに会い・そして生きがいに会い・その人らしさを大切にできるホームを目指します。と、独自の理念をスタッフの目の届く休憩室に大きく掲げている。	○ 理念を常にスタッフが頭に入れて実施するように声をかけていく。
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	スタッフには、年間の上期・下期の目標に理念をもとに個々の目標設定をするようにしている。	○ スタッフの目標面接の際に、理念の事を頭に入れるように伝える。
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	地域の方々や御家族の方々に対しては、なかなか理念を伝えきれていない。	○ 運営推進会議の場や、御家族の面会時に、理念を伝えていく。
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	利用者様との散歩の時や、地域のゴミ拾いなどの参加時に挨拶などは実施しているが、気軽に立ち寄れる付き合いがまだまだできていない。	○ 地域の方々がいいつでも気軽に立ち寄れるように、地域行事の参加を主に実施していく。
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域で実施している、「いきいきサロン・子供サロン・廃品回収」の参加を適宜行っている。	○ 今後も、参加させて頂き、顔なじみの関係を気付いていく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の高齢者の方々に対して、話し合いを持つことができていない。	○	運営推進会議などで、地域の高齢者などについて話し合っていくようにする。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回、初めての評価のため、評価をもとに実践できず。	○	今回、開所されて初めての自己評価・外部評価のため、まだ評価はできていないが、今後は、この評価内容を把握し、グループホームでは何を求められているのかを学び実践していく。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一度の運営推進会議では、市町村・地域の方々・御家族の方々と話し合いを持ち、そこで出た意見を参考にサービスの向上に生かしている。	○	今後も、市町村・地域の方々・御家族様の意見を反映していく。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議以外の連携としては、ホーム内で事故が起きてしまった時などに、市町村へ行き報告や連携をおこなっている。ご家族様からの苦情は今のところないため、報告をせず。	○	運営推進会議以外では、市町村の方に来て頂く機会を今後つくれるように、思考していく。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する制度の理解と活用についての研修会などの参加に過去一年間で参加していない。	○	今後は、研修会に参加し、スタッフ一人ひとり、権利擁護について意識をあげる。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	時々、「○○しては駄目」と言ってしまうことがある。その他の虐待についてはスタッフ一人ひとり注意を払って防止について止めている。	○	コミュニケーション能力の向上や、利用者様の状況を把握していく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	御家族様と契約をする時は、施設の案内や、グループホーム役割などを説明し、契約時に必要な書類すべてに説明をしている。その時、不満や疑問点も聞くようにしている。	○ 今後も、利用者様と同じく、御家族様にも配慮、声かけを実施していく。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様の自己主張を大切にケアを実施している。また、毎月のモニタリングで評価し、ケアプランに生かすようにしている。外部の方々に対しては、なかなか機会をつくれていない。	○ 今後も、利用者様の声を大切にケアを実践していく。また、利用者様の声を外部の方々を表せる機会を作っていく。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	契約時に、アンケートを取らせていただく。内容としては、「転倒時の程度の報告・受診時の程度の報告・日々の様子での報告の程度など」それによって、御家族様に対して個々に報告を実施している。金銭管理については、利用者様家計簿を作成し、面会時に報告している。異動については、運営推進会議などで報告している。	○ 職員の異動については、運営推進会議に参加した御家族様にしか報告ができていないため、今後検討する。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	御家族様の意見は面会時などで、聞くようにし、その意見に関しては、極力ケアに反映できるように努力している。また、外部の方々に対しては、なかなか機会ができていない。	○ 今後も、御家族様の声を大切にケアを実践していく。また、御家族様の声を外部の方々を表せる機会を作っていく。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の定例会議などを開催し、スタッフの意見を聞くようにしている。そこで話し合った内容などを運営者などに、議事録として報告している。	○ 今後はスタッフが均等に定例会議に出席できるように、配慮する。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	勤務表作成時の段階で、要望や変化が見られる場合は勤務表を調整しているが、いざ、ローテーションを組んでから変更は、なかなか実施できていない。	○ 利用者様のその日の状態・変化によりスタッフの時間帯の確保ができるように今後、実施していく。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開所してから、離職は0・異動は1のみのため、今後も馴染みの関係を気付いていく。また、今後、移動や離職があった場合、勤務表の作成に注意を払い、変化を極力最小限にしていく。	○ 離職・異動後の勤務表の配慮、新しいスタッフのみの日を作成しない。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内では、教育委員会があり、認知症についてだけでなく、事故対策や感染の研修など、毎月にわたり実施している。また、ホーム外研修では交換研修など、機会があれば、実施できている。OJTでは、利用者様に対して日々どのように接していかなければならないか、模索している。	○ 今後は、全スタッフがホーム外研修に行くことができないため、平等に研修へ行けるように取り組む。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	群馬県地域密着型連絡協議会による交換研修・研修会には、参加させていただいている。しかし、グループホーム同士の見学会や、研修会はできていない。	○ グループホーム同士の見学会を取り入れていく。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	ストレスを軽減させるため、コミュニケーションの工夫はなされている。また、レクリエーションなども定期的実施しているが、参加者がなかなかいない。	○ ストレス軽減のための遊びやメンタルケアについて実施していく。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	事業所目標(数値目標・非数値目標)や個人の目標管理シートをもとに実績評価をしている。	○ 目標の書式をもとに今後も、スタッフに向上心を持つように声かけや面接などを実施していく。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	本人がグループホームを利用するにあたり、実際にこちらから足を運び、直接本人に会い、面接をさせて頂き、その時、不安や要望を聞くようにしている。	○ 今後は、初めて会う方とのコミュニケーション能力を身に付ける。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入所前、契約前、申込時に必ず当事業所に足を運んで頂き、ホームの案内後、家族と面接をして、不安や要望などを聞いている。	○ 今後は、初めて会う方とのコミュニケーション能力を身に付ける。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	当事業所が満床である場合、他のグループホームの紹介や、ショートステイなどを紹介はできているが、知識がないためそれほど出来ていない。	○	介護保険でサービスを受けられることや、地域の事業所を把握する。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族から本人の性格や認知症の症状は確認するが、サービスをいきなり開始してしまっている。	○	サービス提供前に、家族と相談し、家以外の施設で外泊の練習など相談するようにする。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	時々スタッフ目線になってしまう時もあるが、利用者様の目線に立ち、喜怒哀楽を共に関わっている。	○	今後も、スタッフ中心のケアにならないように、利用者との目線・ペースに合わせるように努力していく。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会時には、必ず、利用者様の現状報告をし、家族の意見を参考に本人を支える努力している。	○	家族の意見を大切に、今後も利用者様を支えていく。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族の方がなるべく施設に足を運んで頂けるように、面会時に仲介に入ったり、共に過ごしたりしている。	○	家族がホームから足が遠のかないように今後も、ホームからアピールしていく。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者様の馴染みの関係を持った方の情報がなかなか取り入れることができていない。	○	家族から利用者様の情報を取り入れ、いつでもホームに来て頂くように声をかける。また、ホームに足を運びやすい環境を整える。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	話が好きな方、一人での好きな方など、個々にたくさんの個性を大切に、スタッフが仲介に入り、利用者様同士の関係を保つようにしている。	○	今後も、利用者様の人間関係を大切に取り組んでいく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	現在、開所されてから1名契約が終了となったが、継続的な関わりを必要としない利用者や家族のため、関係を断ち切ってしまうている。	○	今後、継続的な関わりを必要とされる方が契約終了となった場合、関係を断ち切らないようにしていく。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎月のモニタリングにより、その方の今のニーズを受け止められる限り、それをもとにケアプランに反映している。しかし、時々スタッフ目線になってしまうこともある。	○	今後はスタッフ目線にならないようにし、本人の意向が分からない場合などは、家族に相談するようにする。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今まで生きてきた生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境を把握し、ケアプランに反映しているつもりが、多々な生活歴を把握しきれていない。	○	現状のケアプランで満足せず、今後も、本人を引き出せるように、コミュニケーションや家族に相談するようにする。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	介護がより必要な利用者様に対しては、関わる時間が多く総合的に把握する機会はあるが、介護あまり必要としない利用者様に対しては、なかなか把握しきれていない。	○	利用者様平等に関わる時間を持ち、総合的に把握できるようにする。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人の意向は大切にプランを作成できているが、家族からの意見をなかなか聞くことができない。また、他職種との話し合いができていない。	○	サービス担当者会議に家族・他職種の意見・参加をして頂くようにする。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	有効期限切れ・3か月に一度の見直し以外、余程の状態変化がない限り、見直せない状態である。	○	状態変化時に家族の協力を仰ぐようにする。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一日のスタッフ人数が少なく、言葉の伝達はなかなか難しいため、個々に記録やノートを作成し、変化や連絡事項を共有している。	○	今後も継続し、伝達漏れがないようにする。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	緊急性のある要望に対してはすぐに対応できるように心がけているが、緊急度の低い要望は柔軟に対応できていない。	○	今後も、どんな要望でも柔軟に対応する。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	本人の意向に応じて地域資源を活用できていないが、利用者が離園された時、警察などを協力して頂いた。消防訓練なども、消防署のみで地域資源を活用できていない。	○	今後は、消防訓練などにも地域の方に協力して頂くようにする。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	法人外とのケアマネジャーと話し合いを持つことがないため、他のサービスを利用するための支援ができていない。	○	今後、本人のニーズをより把握しその方に適したサービス内容を考え、支援していく。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターと協働ができていない。	○	本人の意向や必要性応じることがあった場合、地域包括支援センターと協働できるようにする。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人の意向が難しい場合、家族の希望大切にかかりつけ医との事業所の関係を築きながら、その時に応じた適切な医療体制が整っている。	○	今後も、家族の意見などを大切にかかりつけ医との関係を大切にする。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	○	<p>今後もより利用者様の認知症状を見極め、その時に応じ、医師相談し、対応する。</p>
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	○	<p>今後もより利用者様の病状を見極め、その時に応じ、看護師に相談し、対応する。</p>
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	○	<p>利用者様のあり得る病状を把握し、他の病院に関して、備える必要がある。</p>
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	○	<p>今後、重度化・終末期に関してかかりつけ医と繰り返し相談していく。そこで決まったことを、全スタッフで共有する。</p>
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	○	<p>今後、早い段階から重度化・終末期の対応を視野に入れ、かかりつけ医と相談していく。</p>
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	○	<p>今後、別の居所へ移りこむ際は、当ホームでの生活歴等を、申し送り、住み替えのダメージを軽減するようにする。</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者様、個々のプライバシーを守り、尊重している。時には勝手に他室入室してしまう方もいるが、自室誘導、他者様のお部屋であることを説明する。	○ 今後も、継続していく。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	一日に全員の希望が叶わないが、その日、その時の様子を見ながら利用者様の思いや希望を叶えている。お手伝いしたいと希望がある時は、テーブルを拭いてもらったり洗濯ものたたみをしていただく。	○ できる限り、利用者様一人ひとり1個お手伝いをして頂いている。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様一人ひとりのペースを大事にして、時々外出願望が強い場合は、車を借りてドライブしたり、買い物と一緒に行く。またのんびり一日過ごしたりしている。	○ 今後も、継続していく。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	自立している方は見守りしたり声かけし促す。理容・美容は家族とともに外出時にしている。中には、ホームで依頼したプロの方に来てもらいホーム内で、理容・美容えおしてもらおう。	○ なるべくなら利用者様の家人と本人一緒に外出した際にできれば良いのですが。外出時は利用者様のおしゃれな洋服を着ていくようにする。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	スタッフと数人の利用者様で昼食準備・盛り付け・配膳・後片付けをしている。	○ 足が不自由な利用者様以外はなるべく利用者様一人ひとりキッチンまで持ってきて下さる。このまま継続していく。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	おやつはなるべく手作りにしている。お酒の好きな利用者様と他の利用者様に時々、ビールを提供する。	○ ビール以外にも果物酒や食べ物を個々に聞き、一か月に一回以上したい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	アセスメントを取り、利用者様の排泄パターンを把握しその方に合わせたケアを行っている。	○	レベルの低下は見られるが、今後も継続して利用者様に合わせた排泄を行う。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週に2回以上の入浴で利用者様の状態を観察し、利用者様に聞いて、入浴をして頂いている。	○	一人ひとりの入浴なので、たまに二人での入浴をして頂くのも良いと思う。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	夜間は、安眠して頂けるようにしている。居眠りされている利用者様に対しては声かけし、自室で休んでいただいている。	○	今後も継続していく。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	天気の良い日は、外気浴をしたり、買い物に利用者様と行ったり、四季おりおりで行事を行い遠出している。	○	今後も継続していく。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様の所持金を把握し、ノートに支出記入して頂いている利用者様がいる。	○	今後も継続していく。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日頃の様子を観察する事で、一緒に買い物に行ったり、車がある時はドライブ、暖かい日には散歩などを行っている。		今後も継続していく。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	家族の方が面会に来られた時に外出を進めている。また、個別に外出は買い物・散歩などはできているが、その他はできていない。	○	誕生日などに、その人の個性合わせた外出を取り入れる。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望にて電話をしてもらっているが、時間帯によって翌日にして頂くこともある。スタッフの意思で年賀状を家族へ送らせていただくが、本人の手紙などを出せていない。	○	電話をするのが難しい方でも、手紙や絵・写真などを送っていく。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族だけでなく、本人の近隣の方々も訪問されたりしている。来て頂いた方とお茶を飲んだり、談話されている。	○	ホームの近隣の方々にも立ち寄ってもらえるような雰囲気作りをする。
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしていない。	○	今後も継続していく。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室の鍵はかけていないが、浴室は鍵をかけてしまっている。また、日中も状況により、玄関のカギをかけてしまうことがある。	○	職員の人数が居る時は、鍵をかけず、見守りをする。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	居室やトイレなど自立にて行える方は見守り所在を把握している。夜間は物音をした時は居室の扉の小窓から様子観察をしている。	○	危険な行動がなければ、声をかけず、見守りを継続していく。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	口腔ケア用品など自己管理できる方に対してはして頂いている。	○	できるだけ出来るところは自己管理して頂く。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	法人内の研修会にはそれぞれスタッフが参加し、ホーム内でもインシデントがあった時は、その都度カンファレンスをしている。	○	一人ひとりの状態を把握し、それぞれの変化に対応できるようにしていく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	法人内の緊急時対応研修や、ホーム内独自の緊急時対応研修を定期的に研修している。	○	今後も、定期的に研修を行う。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回ほど消防訓練(総合)訓練を実施し、昼夜の想定訓練を実施している。しかし、地域と方々と一緒に訓練をできていない。	○	今後は、地域の方がも一緒に参加できる消防訓練を実施していく。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	ケアプランなどで、評価し、その都度、転倒などのリスクなどを家族に説明している。またその時、家族の意見を大切に对应策を考えて、抑圧しないようにしている。	○	今後も、リスクがあるからと言って、抑圧のないケアを目指していく。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	少々の時間ながらも、スタッフ同士引き継ぐ時間を設け、状態が変化時の場合は、スタッフと話し合い、その時の対応を実施している。	○	今後も、スタッフと他職種との連携を図り、状態変化の早期発見や準則な対応を実施していく。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	自立の方は、スタッフ見守りのもと、フォルダーから出して頂き、一緒に確認し、投薬し、他に手を出してしまう危険のある方は、スタッフが取り出し、一緒に確認し、一人ずつ対応している。	○	一人ずつの対応を継続し、自立できそうな方で介助してしまっている方を見直しながら実施する。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	毎朝、便秘日数のチェックし、食物繊維や水分、運動を日中に心がけている。腸内環境の事を考え、オリゴ糖の活用も行っている。	○	今後も継続していく。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の口腔ケア以外にも、一日最低一回のカテキン使用にてうがいを行い口臭予防も行い、毎晩、義歯をポリドントを洗浄している。	○	義歯や歯については、今後も継続し、舌の汚れも気にしていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	朝食に関しては、献立をスタッフで栄養面などを考えている。、昼食・夕食は業者と契約し、栄養面なども計算されている。また、便秘予防として、朝食事にヨーグルト又はキャベツの塩もみを提供し、水分管理(1日ℓ以上)提供している。	○	今後も継続していく。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染用セットをトイレ・脱衣室に設置し、即行動できるようにしている。また、環境整備では、毎日、掃除機と時々、ハイター入りのモップをかけている。院内研修で、感染対策の研修会に参加している。	○	さまざまな感染症に対して今後知識を向上させる。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	生野菜に関しては、テルセンブリーチで、除菌、漂白剤で消毒し、調理用具もハイター消毒し、冷蔵庫内は、週に1度拭き、賞味期限も確認している。	○	今後も継続していく。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	日中はいつでも出ていけるように鍵はかけず、暖かい時は、網戸にしておく。	○	近隣の方々と接する機会がまだまだ少ないため、散歩時などに通りすぎる時などに、挨拶しホームのアピールをする。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を味わっていただくため、季節の花を飾ったり、夏には、家庭菜園をし、収穫し、調味している。	○	生活感・飾りなども不足しているため、今後、利用者様と一緒に考え取り組む。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事時のテーブル、TVの前にはソファを置き、和室には炬燵を置いている。また、部屋は個室である。利用者様に好きな場所で好きなように過ごしていただいている。また、外には、ベンチを置いている。	○	利用者様が自由に気を使わないような空間を目指す。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時本人と家人の意見を取り入れ、家具の配置を決めた。新たに持って来たものについても同様。使用して見て、危険がある場合、本人と相談し変更した。	○	今後も継続していく。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	毎朝の掃除のとき、窓を開け空気の入換えをしている。夜間汚染時は換気扇を使用している。リビングと自室の温度の差がある時、声かけにて調整している。	○	暖房や電気の消し忘れがあるので注意していきたい。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	更衣・排泄・入浴等、一人ひとりの出来ることには声かけ、見守りにて対応している。状態の変化により出来ない事は方法を換えるだけでなく、元のやり方に戻して出来る事もあるので変更の定着にこだわらない。	○	その人の行動から新たな出来ることいきたい。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	一人ひとりの情報収集と、先入観にとらわれることなく、いろんな事やってみて、その人が好んでやる事にスタッフ同士で情報交換している。	○	スタッフがやりすぎてしまう事への見直しを定例会での協議をもっとしていきたい。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	天気の良い日の外気浴と散歩。家庭菜園を暖かい時期はしている。	○	10時のお茶等、天気の良い日に、外での時間をもっと増やしていきたい。年間を通して菜園をしていきたい。

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
		○	④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている		①ほぼ全ての職員が
		○	②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が
		○	②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

当事業所では、利用者様がホーム内だけでなく、なるべく外へ出ることの楽しさを味わっていただくようにしています。地域交流である「地域ゴミ拾い・廃品回収の参加・いきいきサロン・子供サロン」を中心に地域の方々との関わりを大切にしています。また、毎月のイベントでは、「イチゴ狩り・紅葉狩り・花見」などその時の季節感を味わっていただくため、日々努力しております。また今後は、ホーム内で楽しめるアクティビティをしていき、利用者様と楽しむことを目指していきたいと思っております。その他に、法人内に病院があるため、医療面に関しても充実しており、状態の変化時など、医療従事者との連携により、迅速に対応して、早期発見やその後の対応をすみやかにしています。